

社会保障・福祉制度と温泉——温泉の利活用の社会化の可能性を考える

駒澤大学 原田啓一郎

1 温泉地視察調査の概要

- 北海道豊富町・豊富温泉
- 秋田県仙北市・玉川温泉
- 新潟県阿賀野市・五頭温泉郷
- 山梨県北杜市・増富温泉
- 鳥取県三朝町・三朝温泉
- 鳥取県倉吉市・関金温泉
- 大分県竹田市・長湯温泉
- 秋田県鹿角市・大湯リハビリ温泉病院

2 「温泉の利活用の社会化」を考える

(1) 「温泉の利活用の社会化」とは何を意味するのか

「温泉の利活用の社会化」を必要とする背景

「温泉の利活用の社会化」の視点

本視察調査で明らかになった「温泉の利活用の社会化」の萌芽

- ① 温泉地形成の社会化
- ② 温泉の利活用形態の社会化
- ③ 温泉の利活用に関する利用者の費用負担の社会化

(2) 温泉地形成の社会化

国民温泉保養地、温泉利用型健康増進施設（連携型施設）の認定、豊富温泉の取り組み

(3) 温泉の利活用形態の社会化

湯中運動、メディカルステイ、インセンティブの提供、ユニバーサル・ツーリズム、温泉施設でのデイケア、温泉へのアクセスの保障

(4) 温泉の利活用に関する利用者の費用負担の社会化

社会保障・福祉制度による給付、医療費控除、温泉療養保健システム

(5) 温泉の利活用の社会化—その可能性と課題